

I 気象の概況

1. 平成8年の気象経過

平成8年4月から10月までの気象経過を札幌管区気象台発表の「北海道気象速報・月報」より抽出した。また、道内5か所（函館、岩見沢、旭川、帯広、網走）の平均気温、降水量および日照時間を中央農試 HARIS（北海道農業試験研究情報システム）のアメダスデータより抽出し、図1-1-1、2に示した。なお、図の平年値は昭和61年～平成7年の10か年平均である。

4月：低温・少雨・やや寡照

月前半は気圧の谷の通過でぐずついた天気が多く、上空に寒気が入って気温は低めに経過した。後半は高気圧に覆われ天気も回復し、気温も高くなった。また、降水量は全道的に少なかった。

5月：かなりの低温・多雨・寡照

気圧の谷や寒気の影響で天気はぐずつき、下旬半ばまで気温はかなり低く経過した。月末には真夏日もあったが、オホーツク海側を中心に月平均気温の低い値の極値を更新した。また、月半ばには太平洋側東部やオホーツク海側で雪が降り、降雪の深さの日合計や月合計が5月として第1位の記録となったところがあった。下旬初めには太平洋側で局地的に大雨となった。

○9～11日の大雨（日高）、大雪（十勝、網走）による農業被害：日高19か所、十勝363か所、網走260か所

○21～24日の大雨による農業被害（主に十勝）：61か所、耕地冠水56ha

6月：低温・並雨・寡照

月初めは上空に寒気が入り雷雨となった日があった。月半ば以降は気圧の谷や冷たい高気圧の影響で曇りや雨の日が多く、最高気温が平年より低い日が多かった。また、日照時間も全般に少なかった。

○4日の降雹・落雷による農業被害：石狩3,600万円、空知204haで2,660万円、後志5haで1,142万円、上川12haで450万円

○15日の大雨による耕地冠水：日高1ha

7月：並温・多雨・顕著な寡照

気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多く、全道的に日照時間が少なかった。道内気象官署22か所の平均の日照時間は平年の58%、うち14か所で月間日照時間の少ない値5位までを記録した。また、最高気温も低く経

過し、真夏日を記録したところも162観測所のうち29観測所であった。降水量は各旬とも平年より多く、月間でも多雨となった。

○1日の雹、大雨による農業被害：渡島442ha、檜山985万円

23～24日の大雨による農業被害：檜山1か所

8月：低温・並雨・並照

前半は前線や冷たい高気圧の影響で気温が低く、日照時間も少なかった。後半は日照時間も多くなり4月以降の日照不足はやや緩和されたが、中旬以降は前線や台風12号の影響で大雨となり、かけ崩れなどの被害も発生した。

○15～16日の南西部における台風12号による耕地冠水：後志0.3ha

○22～23日の南西部における大雨、強風による農業被害：檜山8,408万円

○27日の降雹による農業被害：上川446ha

9月：並温・並雨・並照

天気は概ね周期的に変わったが、気圧の谷や前線の影響で局地的大雨が目立った。下旬には強い寒気が入り羊蹄山、暑寒別岳、旭岳では初冠雪を観測した。

○11～12日の降雹による農業被害：上川560ha

10月：並温・やや少雨（局多）・並照

天気は月半ば頃まで短い周期で変わったが、その後は寒暖の変動が大きかった。月降水量は日本海側で多くなり、稚内では月降水量の多い値の極値を更新した。

3～4日の大雨による耕地冠水：石狩84ha、空知2ha

2. 平成8年の気象の特徴

先に示した概況と図より、平成8年の気象で特異的な事項は、①4月の低温と5月の低温・多雨、②7月における著しい日照不足と多雨があげられる。これらの要因を視覚的に表すために、中央農試企画情報室情報課の協力を得て、HARISの「気象情報活用システム」を用いて、メッシュ地図を作製した（図1-2-1～5）。以下各々について考察する。

4月の低温と5月の低温・多雨

冬季の降雪が多く、融雪が遅れていたところに加えて、4月中旬の低温（図1-2-1）も相まって、多雪地帯の

表 I-2-1 各気象官署における根雪終日

場 所	札幌	旭川	小樽	岩見沢	倶知安
平成8年の根雪終日(月日)	4.14	4.15	4.17	4.21	4.30
平年差(日)	+13	+10	+10	+15	+11

一部において融雪が著しく遅れた(表 I-2-1)。低温は5月まで続き(図 I-2-2)、また局地的に雨が多かったことも加えて(図 I-2-3)、各夏作物の播種作業等は大幅に遅れ、また、出芽や初期生育が劣ったものと考えられる。

7月における著しい日照不足と多雨

北海道気象速報によると、夏期(6～8月)の低温・並雨・寡照は昭和32年以来39年ぶりであった。しかしながら昭和32年は8月が低温・多雨・寡照であったが、6・7月は一部を除き晴冷であったのに対し、平成8年は一貫して低温・寡照で、特に7月は多雨(図 I-2-4)・著しい寡照(図 I-2-5)であった。このことは、8月までに生育が終了する小麦に多大な影響を及ぼしたものと推察される。

(佐藤導謙、鴻坂扶美子)

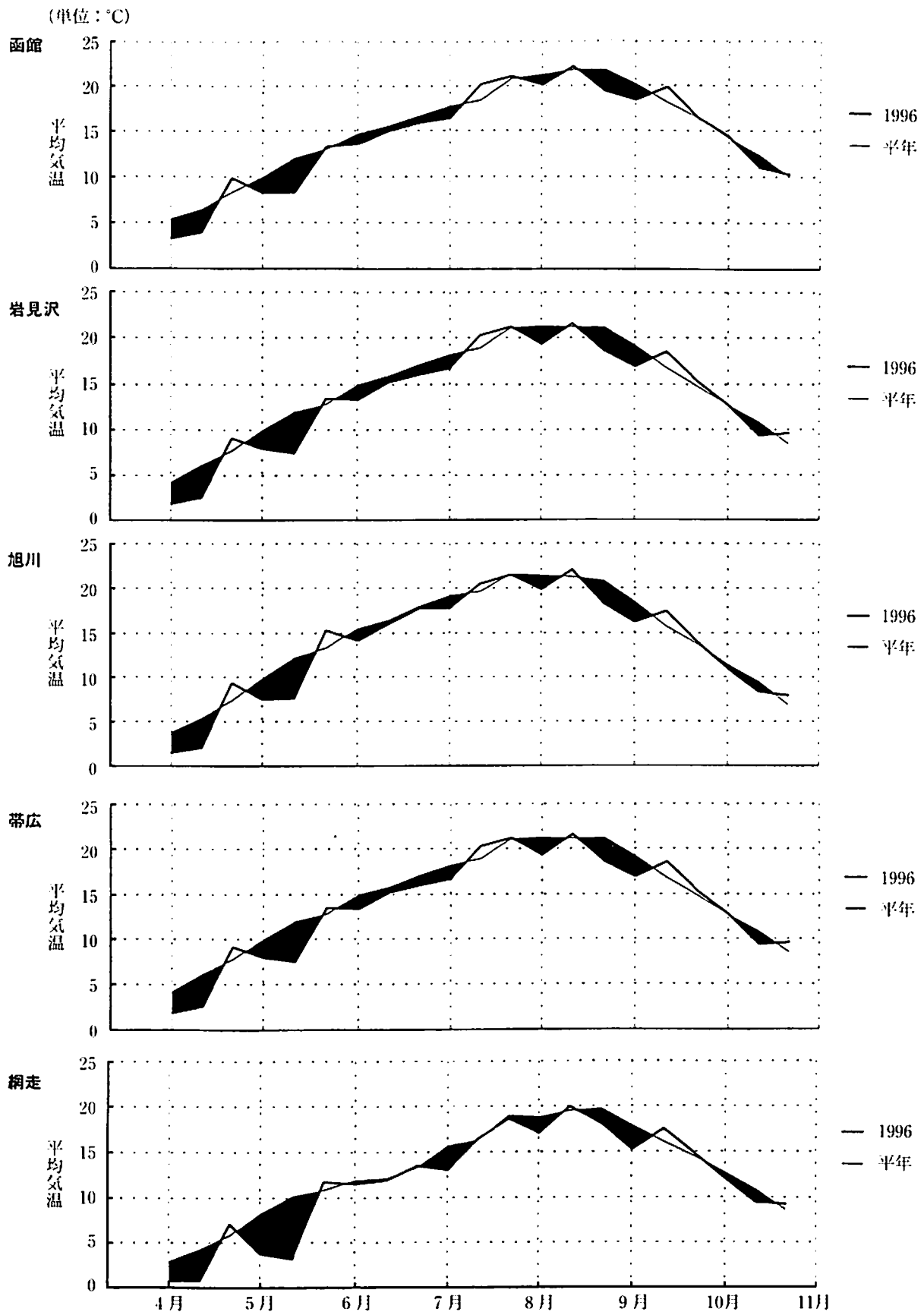


図 1-1-1 道内 5 か所における気温の推移
(平年値は 1986~1995 年の 10 か年平均)

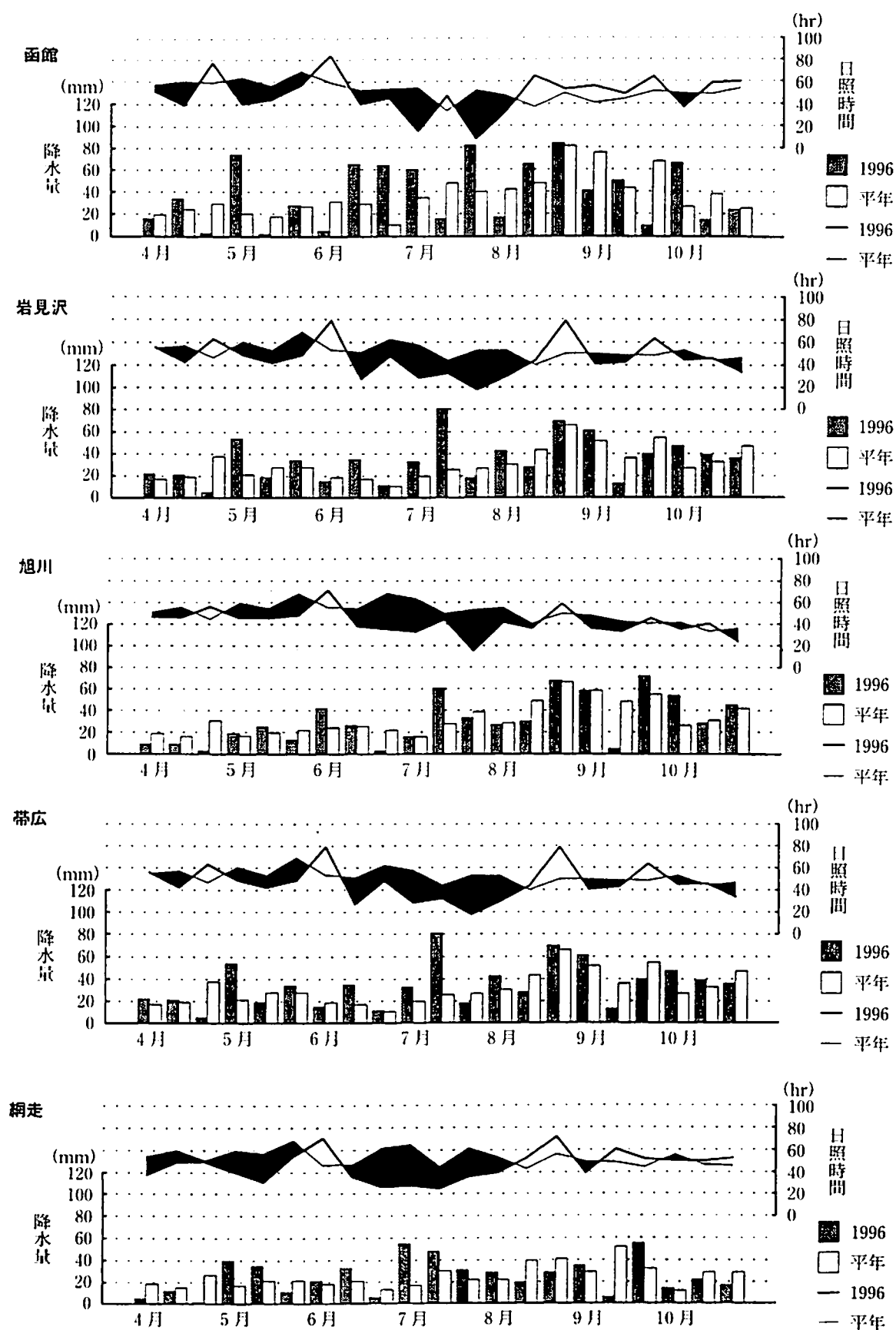
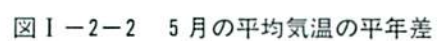


図 I-1-2 道内 5 か所における降水量および日照時間の推移
(平年値は 1986～1995 年の 10 か年平均)



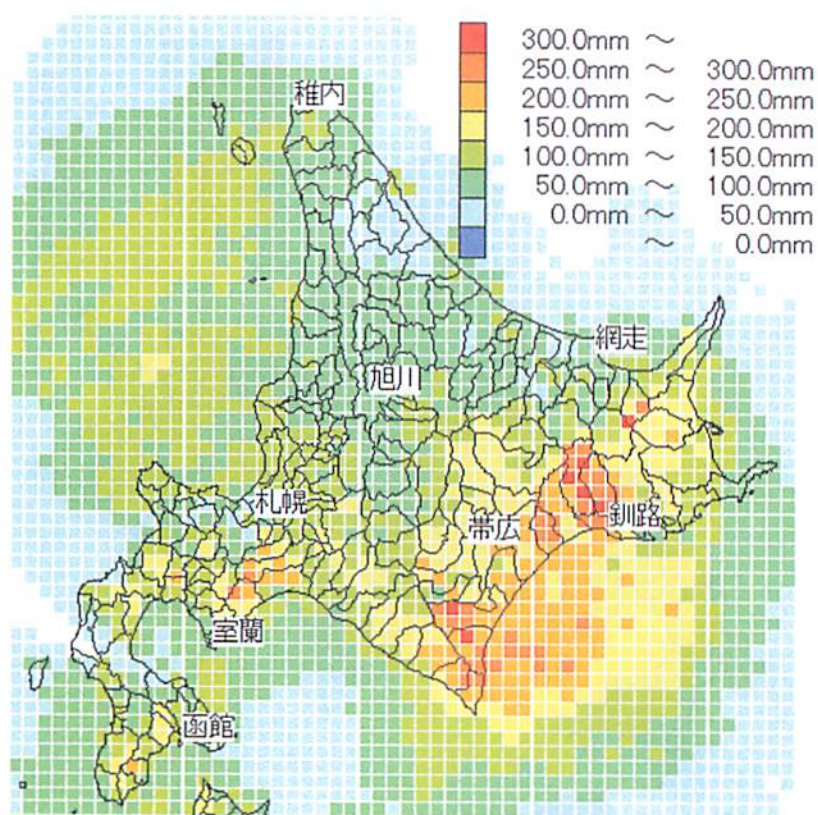


図 I-2-3 5月の積算降水量

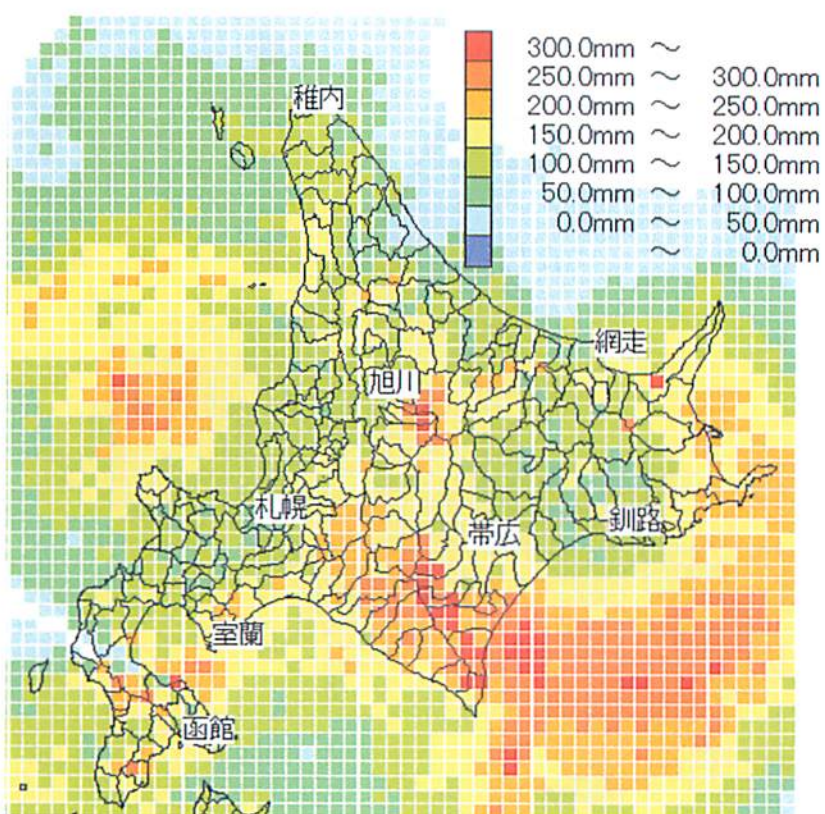


図 I-2-4 7月の積算降水量

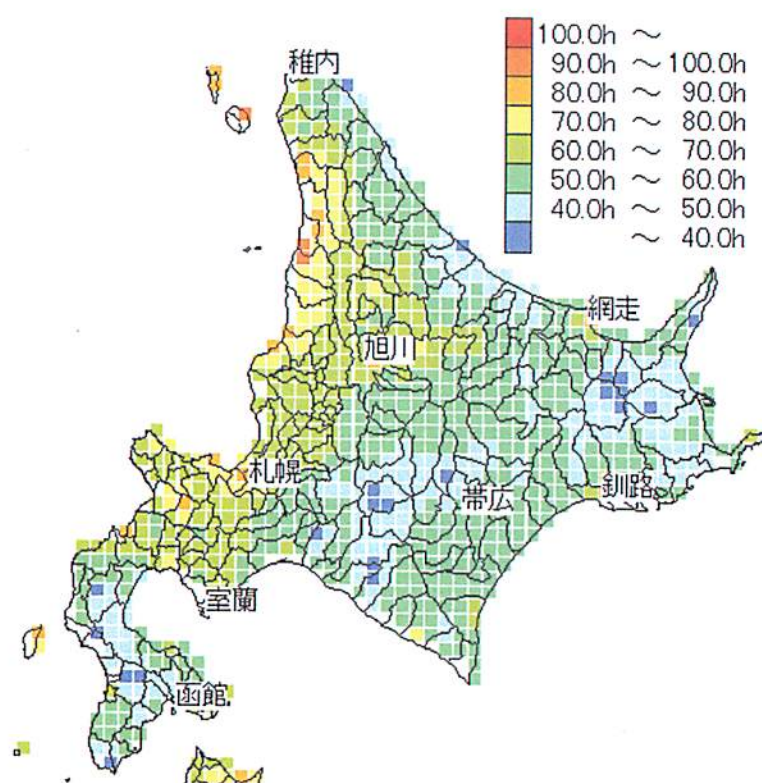


図 I-2-5 7月の積算日照時間